

母とゐて

二五回生 牧村佳那子

(山崎)

本人紹介は会誌五号四六頁

未来樂し過去なほ樂し青木の実

看とるはず看とられゐるや石路の花

やさしさの二倍わがまま甚平着て

梅咲くや顔半分が動かない

母とゐて大阪弁や釣葱

夏の雲介護一より解かれたり

車椅子母に桜の空がある

遠花火常の顔して母逝けり

編集部 ご主人との生活、母上をお見送りし

司祭待つ母薄化粧夏夕

ご自分の病からも立ち直られました。